

進捗状況の概要（2ページ以内）

① 大学改革の加速

本事業の到達目標は、ディプロマ・ポリシー実現に向けたカリキュラムの体系化及びそれらの質保証であり、本年度は、昨年度までに開発した質保証マップをもとに、ディプロマ・サプリメントの検討を行ってきた。ディプロマ・サプリメント開発の準備として、社会連携 WG を通じた企業の声や、AP 事業のテーマVの他大学の事例を地域別研究会や個別ヒアリングを通じて確認した。それらをもとに本学独自のディプロマ・サプリメントの項目ならびに評価方法を検討できた。さらに、卒業生調査の実施の継続（18.8%→19.4%）を行った。本年度も、全学教員が出席する毎月開催される学事連絡会議時において本事業の内容、具体的な目標などの教員間での共有も行った。

成績の評価、授業デザインを意識した FD 研修会を実施し、定期的な授業外学修の調査を1・2年次に行い、卒業生にも調査を実施行った。授業外学修支援のための CBT 教材の活用も情報等の科目において試行を行った。さらに、理科についても CBT 教材の整備を継続して行った。

本年度は、特にディプロマ・サプリメントの検討を行う中で、学生のこれまでの学びの気づきを促すツールとして活用することに主眼を置いた。これによってキャリアの授業において活用することができる。また、ディプロマ・ポリシーに関しても積極的に授業で活用することで、常に出口を意識したキャリア教育を行うことができた。FD 研修の実施とディプロマ・サプリメントの検討によって、次年度の授業シラバスに授業で扱う汎用力項目を明記した。これによって、ディプロマ・ポリシーに沿った各授業のデザインを行うことができた。キャリア教育を必修化することによって、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの学生への浸透を促すことができた。外部からの助言として、社会連携 WG、高大連携 WG、大学連携 WG、外部評価委員会を行い、ディプロマ・サプリメントの項目、CBT 教材（具体的な内容）の助言、授業評価、シラバスについての助言を得ることができ、教育改革に寄与することができた。

② 事業の実施体制

事業の実施体制については、全専任教員が出席する毎月開催の学事連絡会議において本事業の内容、具体的な目標などを教員間で共有している。また全教員が参画する領域 WG も実施し、CIST 質保証マップについて検討を行った。それらの検討結果については本事業の上位決定組織である企画運営会議（教育改革推進委員会）に適宜報告され、学長・学部長主導のもとに全学的な取り組みができていく。

③ 事業の実施計画・継続性

事業の実施計画は申請時の計画通りに概ね実行できている。また、補助期間終了後の継続発展に向けた取組として、本事業は、本学の中期目標に沿った内容であり、大学として継続展開を図っていく。本事業での中核となる「CIST 質保証マップ」やシラバス改訂、教育カリキュラム改革は、全教員参加による FD の成果であり、令和 2 年度以降（事業終了後）も学長を中心とした専任教員の教育活動の一環で継続して内容の改訂を行っていく予定である。

④ 事業成果の普及

学外への波及効果として、本事業で構築した「CIST 質保証マップ」及びシラバス、ディプロマ・サプリメントは、理工系の大学で汎用的な活用（参照）ができる可能性が高い。特に、「CIST 質保証マップ」をデータベース化して、e ラーニング・e ポートフォリオ・授業ポータルと連動した情報システムとすることで、公開性・再利用性がさらに高まる。さらに、理工系のみならず、情報系・医療系などの出口が明確な領域を中心に広げた場合にも、教育システム自体は本事業の成果を活用して再

利用可能であると考えられる。また、これらの事例については、AP テーマ V 事業参加校への共有（11月の地域別研究会での事例報告）や日本教育工学会、大学教育学会、リメディアル教育学会等での事例発表も行っている。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

選定されたテーマは「卒業時における質保証の取組の強化」であるが、本学ではディプロマ・ポリシーを改訂し、それに基づく残りの2ポリシーの改訂、カリキュラムマップの作成、質保証マップ、ディプロマ・サプリメントの開発、シラバスの改訂などすべて全教員が参画する形で行っている。これらをもとに段階的にカリキュラム改革にも着手しており、現在、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿う形でキャリア科目、地域を題材とした科目など順次改革を実践している。今後大幅なカリキュラム改革の計画を年次ごとに着手する予定であり、これらのPDCAサイクルを順次回すことで、全学的なカリキュラム改革を実践している。

また、カリキュラム以外の教育改革として、単位の厳密化を意識したシラバスの改訂を行った。これは全科目のシラバスに主体性・協調性などいわゆる汎用力を盛り込んだ内容を明記している。シラバスの内容や質保証マップをもとにディプロマ・サプリメントを個々に発行し、キャリア教育や就職面談等に活用する予定である。さらに、授業評価を意識したFD研修を毎年実施している。これらにより、全学的な授業改善にも着手している。